

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290200035		
法人名	一般社団法人 ふな会		
事業所名	須崎つわぶき荘		
所在地	下田市須崎1756番1		
自己評価作成日	平成30年3月5日	評価結果市町村受理日	平成30年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとりひとりの入所者の細かいニーズに対応。介護者が入所者のその日の体調を入念に観察し、医師、看護師に相談の上、いち早く対処。その日の状態により食事の内容などを、個対応。食事については、一汁三菜家庭の味を大切に、全て手作りで提供。入所者の好みの味、メニューを職員同士で共有。清潔を大事にし、排泄後のケアや入浴、清拭も心をこめて丁寧に行っている。家族の訪問時には普段の様子を細かく報告。家族からの話から、入所者の興味がある会話の内容を心掛け、笑顔で対応している。アットホームな雰囲気少人数ならではの【心と身体に寄り添うケア】を実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

少し歩けば海に行き着くのに山の上、という山海に囲まれた自然豊かな場所に事業所はあります。「少人数だからこそ、家庭的できめ細かなサービスが提供できる」「治療が中心の病院や制約の多い大きな介護施設の隙間を埋めたい」との想いを以て開業し、また隣には協力医がメンタルクリニックを開業していることから何かあればすぐにでも駆けつけてもらえ、医療連携も安心です。伊豆新聞「伊豆のひろば」に代表が不定期のコーナーをもっていることから周知も進み、水仙まつりでは須崎名物「いけんだ煮」の振る舞いを受けたり、敷地に生育する杉木を「祭りの材料として分けてほしい」と区長が訪れたりご縁の輪が広がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を目につきやすい場所に掲示し、職員全員が共有し、日々の介護に反映させている。	理念は掲示するとともに午前・午後各1回ずつのミーティングで確認し合っています。理念に基づき医師から献立内容など細かくでていることから、自ずと理念の実現につながっています。	職員の理解度を年に1度程度は確認する仕組みをつくと、なお良いと思います。例. 理念の実践レポートの提出等
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の農家より野菜を仕入れ、配達してもらっている。近隣の方が入所者と将棋等を行い交流をしている。	水仙まつりでは須崎名物「いけんだ煮」の振る舞いを受けたり、民生委員主催の笑いの会に加えてもらえたり、広い敷地に沢山生育する杉の木を「分けてほしい」と区長が訪れたりと少しずつご縁の輪が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や訪問を常に受け付けており、入所希望の有無に関わらず相談を受け付け情報提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会開催時には必ず現状報告を行い、様々な意見をサービス向上についての参考とし、実践を行っている。	年間で開催日と定め、多少日程変更があっても年6回開催できています。スタート当初は足りない点があったものの、現在は介護度や平均年齢等のデータで資料を用意し、解りやすい議事録を作ることができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要望や企画したいことがある場合には、市と調整し意見を取り入れ一緒に取り組むようにしている。	以前の諸事を踏まえての学びから「何事も予め伺う」ことを旨とし、市役所には代表が月2回は出向しており、担当職員からは制度変更、加算等について丁寧に親切な対応を受けています。	集団指導については、資料のみでかまわないので入手することを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の人数配置を基準より多くし、入所者の見守りを強化。入所者ひとりひとりに寄り添うことにより、拘束や施錠をしなくても良い体制を整えている。拘束についての研修会を行い介護職員の意識の向上に努めている。	玄関は施錠なくオープンで、センサー設置はあるもののオン、オフの切り替えをおこなえています。また「笑顔あふれるグループホームに」との想いから「キープ・スマイル・キャンペーン」に取組み、10名余の職員がチェックシートで自己評価で振り返っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の認知症状(BPSD)を全職員が理解。虐待防止の研修会を行い情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人がついている入所者がいるため、必要に応じて関係者との連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけて納得のいくまで何度も話し合いを重ね、不安感を取り去ってから入所していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した際には、管理者、介護責任者が日頃の様子を伝達し、意見をいただいている。運営推進委員会に出席された家族には意見、要望を聞いている。月に一度お便りを発行し、意見の反映に努めている。	5名の利用者の内2家族以外は後見人などとなっているため、家族会は運営していません。請求書を送付する際、代表が手紙形式でその月の状況を知らせており、時には写真を付けてより分かりやすく届けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営者との話し合いの場を設けて、職員の意見を反映している。必要に応じて個人面談をしている。	代表は夜勤にも入り、聴く姿勢があることから職員は言いやすく、物品購入のみならず人員配置まで進言が挙がっています。「できるだけ全員で」とすることで会議日程は実際に決まりますが、月1回の開催があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いを尊重し、個人を認め合える風土づくりをモットーに、より良い職場環境になるようにしている。日常業務での評価をしやりがいを創出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人目標に沿った研修に参加し、資格取得やスキルアップを促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者相互の研修、会議を開催し、他事業所との交流や意見交換、情報交換をおこなっている。サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、医師、管理者、介護士が家族、本人に丁寧に要望や気になることを聞き取り、入所時の不安感を早く取り去るように声かけや、その方に合わせた介助をおこなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所者の生活状況、身体症状などできるだけ詳しく医師、管理者が聞きとりを行っている。小さな事でも報告や相談を重ねて、毎月の手紙で状況を報告している。家族の来所時には管理者とともに話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師、管理者が家族と話し合った内容を活かし、身体の機能を保持する為、整体師によるマッサージを毎週行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは本人の持てる力を見極め、テーブルを拭くなどを手伝ってもらい協力関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議への出席やイベント参加への呼びかけを行い、本人と家族がふれあう時間を創出している。管理者が毎月手紙で近況報告を行い三者での絆づくりを重ねている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、お友達やご近所の方にも自由に面会にお越しいただき、本人との関係を継続し面会に来て頂けるように、場所、お茶、お菓子などを提供し、リラックスしてお話しいただけるようにしている。	家族だけでなく近所の人にも訪れます。歩くことが疲れるといった状態の人が大半のため外食も難しく、事業所内で食事を一緒に摂っていく家族もあります。民生委員の取持ちで将棋相手が見つかった人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間などを利用し、利用者同士が会話をするように介護士がサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後(看取り後)でも家族が遊びに来て職員と、本人の思い出話をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを丁寧に行い個別の要望を大事にし、入浴の希望があれば曜日を問わず入れるようにしている。	入居時の面接には協力医が立ち会うことで、トラウマ的なことまで確認できて情報共有が深いことに特長があります。アセスメントは3ヶ月毎に見直し、献立など利用者の声で変わることが日常に溶け込んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のこれまでの生活状況、環境を家族や前事業所の担当者などからくわしく聞き取りを行っている。情報を必要な範囲で職員と共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、水分量、バイタル、排泄、特記事項を詳しく記入し、申し送りを行っている。身体状況によっては医師、看護師に早い段階で報告、相談を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師によるインテークを受け、介護職員がミーティング、生活史に基づいた、対応ケアを行っている。	計画作成担当者兼介護支援専門員が月4～5日現場に入り利用者をはじめ職員に聞き取りをおこない、介護計画書を作成しています。「チームでつくる」をめざし、経過記録の書き方の改善も始まっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に書かれている事柄(食事、水分量、バイタル、排泄、特記事項)を毎週月曜日、医師の回診時に報告、相談。指示を受け、介護を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状態に合わせて機能を維持し、心地よさを実感して頂くために整体師によるマッサージを行ったり、本人の希望があれば入浴の頻度を多くしたり、心地よさを提供するために個対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員などからの紹介で一緒に将棋をするなど、地域の方と交流を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に今までのかかりつけ医へ受診を行い、家族と相談しながら最適な医療ケアが受けられるようにしている。施設住診の医師が必要に応じてかかりつけ医への診療情報を提供している。	隣にある協力医が何かにつけ足を運んでもらえ、訪問診療くださっています。協力医の指示を仰いで他医院も臨機応変に継続させ、医療情報は本人の個人ファイルに保管しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が夜勤を行っており、介護士との申し送り時に利用者の状態を共有し、最適な看護を行っている。必要に応じて医師の回診を要請し、医療ケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に管理者より詳しい状態を報告している。面会時や家族からの連絡により、容態を確認している。退院時には病院医師と家族または管理者と退院後の生活について確認している。看護サマリーも参考に介護計画を立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望、本人の身体状況から終末期の過ごし方について入所時に確認している。納得のいくまで何度も話し合いを重ねて、状況により見直しを行っている。	看取りをおこなう事業所として伝えていますが、協力医が契約時の面談に加わってくださることで看取りについても明瞭な確認がとれ、助けられています。協力医が傍におり、2名の看護師勤務があることで職員は大きな安心に包まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時には医師、看護師への連絡体制が整っており、時間を問わず、迅速に指示が仰げるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練の際に様々な時間に災害が起きた事を設定し、避難方法を訓練している。須崎区長の協力の下、災害時の相互協力関係を築いている。	尾根筋のため地盤が硬固で、標高からも津波の心配はないため「ここにいる」との判断ですが、年2回の防災訓練を実施して有事に備えています。2トンの貯水タンク、太陽光、備蓄、蒔と豊富に備わっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや介護記録の記入は事務室内で行っており、他の利用者に触れないようにしている。個室に入る際はプライバシーに考慮し、声をかけてから入室している。個室のドアの開閉も利用者に任せている	ありがちな折り紙や塗り絵は要望がなければやらず、松の葉を拾って束ねたり、オレンジピールをつくったりと、普段の生活にある楽しみを見出すよう努めており、職員の関わりも利用者の本人本位でおこなわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志が表せる方から要望があった場合は、必ず応じている。意思表示ができない方には、行動や様子から声かけを行い、要望を確認し行動につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮し、入浴や散歩の希望があれば職員が個々に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師資格のある介護士が定期的に散髪を行っている。髭剃りは日課となっている。清潔を心掛け、爪切りなどもまめにを行い、気分転換に洋服なども購入し、清潔感あるおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事アンケートを実施して調理者が個人の好みを把握。質、量共に満足して頂けるように最大限に配慮している。準備、片付けの手伝いについては、現在できる利用者がいないため、職員が行っている。	「～が食べたい」に随時応えるためその日の献立が変わることは間々ありますが、実施記録は残して重ならないようにしています。タラの芽や落の臺を摘んでの地産地消、団子正月などの行事食もおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜の和食を基本に栄養バランスを考えたメニュー、毎食時と10時、15時に水分補給をしている。血液検査により、栄養状態を確認し、個々の栄養状態に合わせて、食事内容を考え提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きができる利用者には、食後に歯磨きやうがいをするよう促している。寝たきりの方には、歯磨きティッシュなどで清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子でトイレへ誘導し、排泄の習慣をつけている。寝たきりの方以外にはおむつ外しを積極的におこない、自立を目指している。	経過記録のなかに排泄チェックの欄があり、毎日記録しています。病院からの申し送りではリハパン使用とはなっていました。日常観察で大丈夫なことを確信して外した嬉しい例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、ヨーグルト等の発酵食品を毎朝提供している。便秘になってしまった場合には、看護師の指導のもと下剤を使用している。居室からフロアへ移動する事を日課とし、身体機能の維持向上に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自力で入浴できる利用者はおらず、週2回職員が介助しながら入浴している。風呂好きの利用者には本人の希望があったときに職員が介助の上入浴している。	ミスト浴が備わるものの一般家庭の浴槽のため重度化するとシャワーチェアとなりますが、「昨日も入ったけど、今日も入りたい」が続くも応えることができおり、南伊豆特産の「鬼柚子」を浮かべて楽しむこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠気や疲れが出ている利用者には休息を促し、夜間眠れない利用者には、安心して眠れるように夜勤者が付き添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに飲んでいる薬の情報をまとめて、誰でも確認できるようにしている。看護師、管理者が薬の管理を行っている。服薬時の名前の読み上げや、間違えがないようにWチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや施設のウッドデッキにて民謡等をみんなで歌ったりしている。将棋等のゲームを近隣住人と行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自立歩行ができ、健康状態が落ち着いている利用者には、施設の近隣への散歩や、海を見に行ったり、買い物に行ったりしている。	8千坪の敷地の中にあるため散歩コースは多様にあり、自由に往来しています。畑を眺め桑の実を立ち食いして懐かしさを味わえたり、マンツーマンのミニドライブもできていますが、年間での外出企画はありません。	年間の外出計画が位置付けられない場合は、個別として介護計画に加わることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理できる利用者がおらず、買い物希望がある場合には、職員が代わりに買い物に行き、後日家族に清算をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度の認知症、難聴の利用者が多く今まで利用者からの通信は行って来なかった。家族から電話があった際には、家族の希望があればつないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快を感じないように温度管理を行っている。日差しが強い場合には遮光している。排泄物の臭いなどがこもらないように注意している。	眺めのよい絵画や調度品、生花が配され、アイコンタクトとタッチングのある穏やかな職員の関わりでどの利用者も落ち着いて過ごすことができている。トイレ、浴室、フロアを日勤帯が掃除をおこなうほか、気が付けばするという形で清潔を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースは常に開かれており、毎日ほぼリビングで過ごされる方もいる。個室においてもリラックスして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の個室には自宅より持参した私物や、家族写真などを飾っている。	介護用ベッド、エアコン、カーテン、洗面台のほか、PTイレやチェスト等足りないものは事業所で用意しており、代表が自身の介護の経験から「身軽にそのまま入居ください」というスタイルを貫いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部はオールバリアフリーになっており、安全に歩行できるようになっている。個室やトイレの引き戸も大きく、軽く設計してあり開閉しやすい。個室のドアに目印をつけ、自分で部屋に戻れるよう工夫している。		